



第1部

ドキュメンタリー映画『沈黙の春を生きて』（2011年）上映

第2部

ヘザー・パウザーさんのトーク

Q&A・市民との対話

ドキュメンタリー映画『沈黙の春を生きて』

1962年にレイチェル・カーソンが著した『沈黙の春』は、当時隆盛を誇った農業の危険性を予言し、DDTが禁止されるきっかけとなった。

一方、その頃ベトナムでは、ジャングルにひそむゲリラの隠れ場所をなくすため、米軍による枯葉剤散布がはじまった。枯葉剤は農薬と同じ成分を持つが、人体や自然環境に多大な影響を及ぼす、猛毒のダイオキシンが含まれていた。

当時のアメリカ政府が「人体に影響がなく、土壌も1年で回復する」と説明していた枯葉剤は400万人のベトナム人に直接散布され、その被害は戦後35年を経たいまも続く。当時ベトナムに駐留していた米軍兵士も枯葉剤を浴び、帰還兵の多くがいまだにその影響に苦しんでいる。被害は彼らの子供や孫の世代にまで及ぶ。

帰還兵の娘、ヘザーは片足と指が欠損して生まれた。父の戦場であったベトナムを訪ねたヘザーは、両国の被害者が繋がっていくことの大切さに気づく。

本作は、枯葉剤の刻印を背負ったベトナム・アメリカ、双方の子供たちの困難と勇気を描き、レイチェル・カーソンの予言的言葉に再び耳をかたむけることの大切さを訴える。

2011 <87分>

長編ドキュメンタリー HDV・カラー

日本語、英語、ベトナム語

企画・監督：坂田雅子

製作：山上徹二郎

編集：ジャン・ユンカーマン

SIGLOウェブサイトより

http://www.cine.co.jp/chinmoku_haru/

HEATHER BOWSER IN OKINAWA

枯れ葉剤2世被害者ヘザーさんと沖縄が出会う会。

この夏、ピースボートの「枯れ葉剤特別スタディプログラム」の船が8月24日に東京を出航し、ベトナムのダナンに向かいます。

この船では、枯れ葉剤被害者の2世のヘザー・パウザーさんがプログラム・リーダーを務めます。ヘザーさんは、米国政府から救済を受けられていない、帰還兵の子どもへの枯れ葉剤の影響に関する関心を高めるために声をあげ、「ベトナム戦争退役軍人の子ども健康同盟 (COVVA)」を共同で立ちあげました。また、ベトナムと米国の枯れ葉剤被害者をつなぐ役割も担ってきた方です。

ピースボートのベトナムへの出航前に、ヘザーさんが、退役兵の証言を集め、沖縄の枯れ葉剤問題について精力的に取材を続けているジョン・ミッチェルさんと沖縄を訪れることになりました。

退役兵と沖縄をつないだジョンさん、米国の退役兵の子どもたちベトナムと米国をつなぐヘザーさんと沖縄が出会う機会となります。戦争が環境や人体に世代を超えて長く遺す深い爪痕、ベトナム戦争のそれぞれの地域においての意味、枯れ葉剤を通じての正義を求める闘い、そしてそこから見える希望など、ともに考える時を共有したいと思います。

8月22日水曜日

午後1時 - 4時15分
入場無料

沖縄大学
本館同窓会館

ージョン・ミッチェル (ジャーナリスト、ピースボート本プログラム担当)
jon.w.mitchell@gmail.com
ー河村雅美 (Okinawa Outreach) mamikw@nifty.com,
070-5482-0084 (日本語での問合せ)。

主催：ピース・ボート、沖縄大学 共催：Okinawa Outreach

※ Okinawa Outreach 沖縄のことについて多言語発信を行っているグループ

ブログ Okinawa Outreach okinawaoutreach.blogspot.jp/ ・ Facebookグループ OkinawaOutreach /www.facebook.com/groups/okinawaoutreach/ を運営
運営者は枯れ葉剤問題において、沖縄の枯れ葉剤に取り組む退役兵グループFBグループ Agent OrangeOkinawaとのコンタクトを努め
沖縄の枯れ葉剤の取り組みの状況を退役兵に伝えている。